

# 徳島赤十字乳児院

## 【基本理念】

私たちは、こどもたちが児童憲章のもと、その人権を重んじ、幸せになることを願い、よりよい養育環境の提供に努めます。

## 【基本方針】

- 1 こどもたち一人ひとりの思いを汲み取り、安心して生活できる環境を提供します。
- 2 こどもたちとのふれあいを深め、豊かな愛着関係を築きます。
- 3 こどもたちの体調の変化に留意し、健康管理に努めます。
- 4 こどもたちが家庭に戻り、安定した生活を送れるように支援します。
- 5 ボランティアや地域と連携し、養育の専門性を活かした子育て支援に努めます。
- 6 職員は、専門職としてのより深い知識と確かな技術を身につけます。

## I 運 営 方 針

近年、児童福祉法等の抜本的な改正や新たな国の方針が示され、社会的養護施設の高機能化・多機能化が求められている。

乳児院においても、言葉で気持ちをうまく伝えることのできない月（年）齢の乳幼児の生命と安全・安心を守る使命を担うとともに、人が人にかかわる人的支援となる養育をおこなっており、常に「養育の質の向上と支援の充実」を再確認しながら事業に取り組んでいる。

1対1での対応が必要な子どもが増加するなか、一人ひとりに応じた養育体制の充実を追求し、更なる養育の専門性を発展させた高機能化を図っていきたい。

また、児童福祉法改正や、令和5年4月のこども家庭庁設置により、地域子ども・子育て支援事業の充実が進められるなか、福祉事業の動向や方向性を的確に捉えた、ショートステイ事業等の地域支援など関係機関との連携を強化し、「子どもの最善の利益」を実現させる一体となった支援へつなげていきたい。

更に、養育・支援の専門性、権利擁護意識の向上のための研修等を通じ、人材の育成に努めるとともに、日本赤十字社の社会福祉施設として、ボランティア活動の活性化や支部事業との連携等を積極的に行っていきたい。

## II 重 点 事 項

### 1 入所児童の養育体制

#### (1) 小規模グループでの養育体制

子どもがより家庭的な「あたりまえの生活」を保障される家庭のような環境で過ごせるよう、児童4～6人を1グループとした「小規模グループケア」を引き続き実施する。小規模（ユニット）化により、保護者や家庭から受ける愛情の実感や愛着形成の再構築を行い、より豊かな感性や人間性の向上に努める。

#### (2) 病虚弱児等の受入体制の充実

病虚弱児・障がい児については、他の乳幼児に比べてきめ細かな一人ひとりに応じた養育や対応が必要である。徳島赤十字ひのみね総合療育センターと組織統合することで更なる受入体制の充実や看護機能の向上を目指すとともに、徳島赤十字病院の協力も得ながら医療的ケアの充実にも繋げる。

#### (3) 機能強化のための専門職員の配置

ア. 家庭支援専門相談員……複雑な家庭環境等への専門的な関わりで家庭引き取りを目指し保護者や関係機関等との密接な連携を図りながら入所児の早期家庭復帰の支援を行う。

イ. 心理療法担当職員……子どもの心身の発達状況の把握や心理的ケア、保護者への支援を行う。

ウ. 里親支援専門相談員……里親家庭への相談支援や、里親希望者の養育研修等を行う。

それぞれの専門職員が一丸となって養育に取り組み、より一層の機能強化を図る。

#### (4) 安全対策の徹底

感染症や食中毒の予防及びまん延防止のための研修・訓練を実施することで子どもや養育者の安心・安全を確保する。

## 2 里親委託推進事業の体制強化

里親支援の推進を図るため、リクルートから研修、里親と里子のマッチング、里親委託後の支援までを包括的に行うフォスタリング機関として、関係機関と連携し更なる支援体制を強化する。

## 3 地域子ども子育て支援事業の推進

社会福祉施設としてこれまで培った知識、技能、ノウハウ等を関係機関等と一体となった地域の子育て支援に活用し、乳児院の特性を活かした福祉サービス事業の拡充に努める。

#### (1) 子育て支援機関との連携強化

全市町村に設置されている「要保護児童対策地域協議会」に積極的に参加し、連携強化を図る。

#### (2) 子育て短期支援事業（ショートステイ）

保護者が社会的事由（疾病、出産、緊急の看護、事故災害、冠婚葬祭、転勤、出張等）により、一時的に養育が困難となった乳幼児を概ね7日間を限度としてお預かりする。

#### (3) 病児保育事業

病气中や病気の回復期にあって、かつ保護者が養育できない場合に就学前まで乳幼児を一時的に預かる事業を継続して推進する。

#### (4) 子育てスペース「にこにこほっぺ」

子育てに不安や負担感を持つ親子の仲間作りや悩み相談の場として保護者の支援を行うとともに、プログラム内容の充実を図り地域の子育て支援に貢献する。

(5) 子育て・食育講座「ハローベビー すくすく」

地域において子育てに不安を抱く保護者を対象に、赤ちゃんへの授乳や離乳食の作り方、アレルギー食の対応等について、乳児院の栄養士や保育士が、これまでの養育経験をもとに実習形式で講習会を実施する。

#### 4 ボランティア受入体制の強化

職員や家族以外の人と関わる機会を増やすことにより、入所児は新しいふれあいや刺激を得ることができる。同時に、乳児院の事業について理解を深めていただく良い機会となるため、多くのボランティア受入を行える体制強化を図る。

#### 5 広報活動の強化

県内唯一の乳幼児の養護施設としての乳児院事業の「見える化」を図るため、広報誌やSNS等による広報活動を引き続き行い一層の啓発に努める。

#### 6 赤十字幼児安全法の普及

日本赤十字社徳島県支部と連携して、赤十字幼児安全法指導員を県内保育園等に派遣し、乳・幼児期に起こりやすい事故の予防と手当、かかりやすい病気とその手当等の他、心肺蘇生とAEDの使い方に関する知識や技術を普及することにより、日常生活での安全、安心の確保に努めるとともに、赤十字活動への理解と協力拡大を目指す。

### Ⅲ 予 算 概 要

#### 歳 入 歳 出 予 算 総 括 表

##### 1 収入支出の合計

	令和5年度 予 算 額	令和4年度 予 算 額	増 減	伸 び 率
収 入 合 計	398,266 <sup>千円</sup>	392,227 <sup>千円</sup>	6,039 <sup>千円</sup>	1.5 <sup>%</sup>
支 出 合 計	321,212	314,961	6,251	2.0

収入支出差引額 77,054千円

##### 2 事業活動による収入及び支出

科 目	令和5年度 予 算 額	令和4年度 予 算 額	増 減	伸 び 率
児 童 福 祉 事 業 収 入	279,942 <sup>千円</sup>	275,703 <sup>千円</sup>	4,239 <sup>千円</sup>	1.5 <sup>%</sup>
措 置 費 収 入	263,452	260,303	3,149	1.2
私 的 契 約 利 用 料 収 入	600	600	0	—
補 助 金 事 業 収 入	240	150	90	60.0
受 託 事 業 収 入	15,650	14,650	1,000	6.8
経 常 経 費 寄 附 金 収 入	100	100	0	—
そ の 他 の 収 入	300	300	0	—
収 入 計	280,342	276,103	4,239	1.5
人 件 費 支 出	274,522	266,538	7,984	3.0
事 業 費 支 出	18,784	16,500	2,284	13.8
事 務 費 支 出	15,808	15,304	504	3.3
支 出 計	309,114	298,342	10,772	3.6

##### 3 施設整備等による収入及び支出

科 目	令和5年度 予 算 額	令和4年度 予 算 額	増 減	伸 び 率
施 設 整 備 等 に よ る 収 入	0 <sup>千円</sup>	0 <sup>千円</sup>	0 <sup>千円</sup>	— <sup>%</sup>
収 入 計	0	0	0	—
施 設 整 備 等 に よ る 支 出	1,500	1,000	500	50.0
支 出 計	1,500	1,000	500	50.0

#### 4 その他の活動による収入及び支出

科 目	令和5年度 予 算 額	令和4年度 予 算 額	増 減	伸 び 率
他会計繰入金収入	1,000 <sup>千円</sup>	1,000 <sup>千円</sup>	0 <sup>千円</sup>	- <sup>%</sup>
拠点区分間繰入金収入	0	0	0	-
その他の活動による収入	38,924	37,124	1,800	4.8
収 入 計	39,924	38,124	1,800	4.7
積立資産支出	0	4,000	△ 4,000	-
他会計繰入金支出	0	0	0	-
拠点区分間繰入金支出	0	87	△ 87	-
その他の活動による支出	8,598	8,532	66	0.8
支 出 計	8,598	12,619	△ 4,021	△ 31.9

#### 5 当期末支払資金残高

科 目	令和5年度 予 算 額	令和4年度 予 算 額	増 減	伸 び 率
事業活動資金収支差額	△ 28,772 <sup>千円</sup>	△ 22,239 <sup>千円</sup>	△ 6,533 <sup>千円</sup>	△ 29.4 <sup>%</sup>
施設整備等資金収支差額	△ 1,500	△ 1,000	△ 500	△ 50.0
その他の活動資金収支差額	31,326	25,505	5,821	22.8
予 備 費 支 出	2,000	3,000	△ 1,000	△ 33.3
当期資金収支差額合計	△ 946	△ 734	△ 212	△ 28.9
前期末支払資金残高	78,000	78,000	0	-
当期末支払資金残高	77,054	77,266	△ 212	△ 0.3

